



## 第20回知多平和学習会、超満員で大成功！

### 「新美南吉の知られざる一面がわかった」 —あまり語られてこなかった反戦への思い—

去る6月30日、151人の参加者で埋め尽くされたアイプラザ半田、小ホール。〜未来をひらく愛知教育のつどいと副題のついた第二〇回知多平和学習会は大成功を収めました。

「ひろつたらっぱ」の朗読、福岡猛司さんによる「新美南吉と平和」と題した講演、教育実践や様々な意見発表、豊富な展示物と、多彩な内容で有意義なひとときを過ごすことができました。

新美南吉が「ひろつたらっぱ」を執筆したのは1935年。その時代背景はどうであったか、と福岡氏は語ります。その2年前には小林多喜二が虐殺され、3年後には国家総動員法が成立し、5年後には大政翼賛会発足、翌年開戦…と、まさに戦争の足音が年ごとに速く大きくなっていった時代でした。その時代にあつて「戦争はもうたくさんです。…私たちがこれからどうしたらよいのでしょうか。」と綴る「ひろつたらっぱ」は南吉の平和に対する心の叫びだったのでしよう。他にも中国人差別に対する反感を示し「張紅倫」、富の差に疑問を投



〈講演する福岡猛志氏〉

じた「堀」、プロレタリア文学に関心をもち、影響を受けたことを記した日記など、世の矛盾を正面から、あるいは側面から追及した、南吉の「もう一つの顔」をいくつも紹介されました。

展示品では、小林多喜二死亡の新聞記事や、「蟹工船」や「太陽のない街」(徳永直)が掲載された雑誌『戦旗』や、新美南吉の「ヒロツタラッパ」の初出誌「赤い鳥」の復刻版などがあり、当時は偲ばせる貴重な資料として多くの方が見入っていました。

### 平和をつなぐ 様々な活動報告

意見発表では、戦跡巡りをバを借り切って実践した、小学校の先生の実践や、知多半島での9条を守る活動報告など、立場は違ってもいろいろな角度から平和を守り引き継いでいこうとする試みが発表されました。

その中でも特に好評だったのは、半田市花園小学校2年の河村遥人君のお父さんの発表です。これまで旅した広島や沖縄での経験や、祖父母との会話などを通して、遥人君の心の中に「戦争はいけない」という思いがふくらみ、自分の意志で絵本に仕上げたというエピソードが話されました。中日新聞にも大きく掲載されたので

ご存知の方も多いことでしょう。ネットで「ユーチューブ 9条くん」とはるとくん」で検索すると、約5分にまとめた動画を見ることが出来ます。是非ご覧下さい。

### 愛高教との協力体制、ポストターやチラシの大量宣伝が功を奏す

今回の平和学習会では、これまでの以上の愛高教との協力体制がありました。企画から当日まで、話し合いを重ね、役割分担を明確にし、しっかりと担えたことは、今後への教訓です。

また、知多半島にある全小中高校にチラシ・ポスターを配布し、教職員への郵送宣伝もしました。半田市を中心に名鉄駅前やいろいろな施設にポ



### 北から南から ～支部だより～

知教労は、毎年5月に異動者アンケートを実施している。その年の異動者にアンケートを郵送し、不当な異動人事が行われていないか実態をつかみ、教育事務所との話し合いで是正を求めるためだ。アンケートを始めたころは、返信も少なく、アンケートの内容も異動に関するものだけだった。しかし、近年は新しい職場での様子も書き込めるようにしてあるためか、返信封筒による回答という面倒な方法にも関わらず、たくさん返事が送られてくるようになった。知教労への要望も書かれており、組合活動に対する期待の大きさを感ずる。

この間、異動に関しては知教協の一方的な市町のグループ分けや、第5希望までの強制的な記入に反対し是正させてきた。不当な異動についても、本人の「希望と納得」に基づいて交渉によって変更させることもできた。近頃は、パワハラ被害が多く、異動を期に退職を迫るような嫌がらせもあり、異動前に知教労に相談を寄せるケースも出てきている。知教労は、まだまだ小さい組合ではあるが、現場で働く教職員の声を大事にしながら、「投票済証」集めに一生懸命な組合には真似のできない活動を旺盛に進めていきたい。(T)

スター掲示をお願いしました。また、宣伝のために制作を依頼したペーパーアートは、格別の好評を得ました。

学習会の成功は喜ばしいことですが、その一方、社会情勢では勢力を盛り返した自民党が改憲への動きを活発化する恐れがあります。9条に守られて戦争をしなかった「平和」は「守らなければ維持できない」ものとなります。今こそ「教え子」を戦場へ送るな」の声を大きなうねりにしましょう！

### 【学習会の感想】

南吉の反戦思想のある作品がたくさんあることを知り、是非全部読んでみようと思っています。あの時代、これだけの作品を書けたことに感銘しました。

今まで新美南吉の作品の時代背景を考えたことがなかったが、福岡氏の話から、作品の時代的な重みを感じることができた。



四年ぶりの一年生。わずかの間に、指導の流れが大きく変わった。国語では「話す聞く」に重点が移った。促音・拗音や助詞の指導が後回しになっていく気がする。▼生活科は、何を指導するのか、一段と分かりづらくなった。勝手に今日はアサガオのふたば、今日は本葉、つる、つぼみと決めて観察させるが、系統的な学習はさせないのか。▼「と」というのがある。十までの数の合成分解を唱えるやつだ。例えば、7は1と6、2と5、3と4などと表があり、唱えながらこれを覚え、さらにたし算もひき算も覚えるのは、勉強の苦手な子には苦痛だと思ってしまう。教科書通り、さらりと流した。すると保護者から強烈なクレームがきた。失礼な憶測まで付け加えて、なぜやらないのかと▼世の中が変わっていくのは当然だし、正しい指摘に対応するのも義務であると思う。しかしながら、しかし、長年の経験から培った自分なりの考えや指導法というものもある。(K)

## データで見る教員の実態 第40回

『第2位・第21位・第34位』

今回は、教育だけではなく日本全体に関するデータです。すでにマスコミの報道でご存じの方もいるかもしれませんが、OECD(経済協力開発機構)が発表した、「ベターライフインデックス」(よりよいくらしの指標)からの順位です。OECDには、現在34カ国が加盟しています。それにロシアとブラジルを加えた36カ国の順位です。韓国は加盟していますが、中国は加盟していません。

最初の36カ国中、日本が第2位というのは、教育です。その判断基準は、「高校修了者の割合、15歳児の読解力」です。日本は、高等学校から自己負担が非常に高くなっていますが、そういったことは抜きにした結果の判断です。

全体の順位を総合してみると、日本は36カ国中21位となってしまいます。安全が1位で教育が2位、所得が6位なのになぜ総合で21位になるかという、よくない指標があるからです。特にワークライフバランスは34位です。ワークライフバランスの判断基準は、「長時間(週50時間以上)勤務者の割合、義務教育課程に在学中の子どもを持つ母親の就業率、余暇や個人的活動(睡眠、食事)にあてた時間」となっています。

日本人の勤務状況は国際的に見て異常だということがわかると思います。私たち教員の勤務はどうでしょうか。週50時間以上勤務者は正規・常勤教員のほとんどが当てはまるでしょう。余暇や個人的活動に充てる時間は、勤務時間が長くなる関係で減らざるを得ません。睡眠時間については、以前このコラムでも取り上げたように、改善されるどころか短くなってきています。

8時間の労働・休息・自由な時間を要求して始まったアメリカのメデーは127年前に闘われ、各国はそれを少しずつ具現化して変わってきています。残念ながら「カロシ(過労死)」が国際的に通じるのが日本の現状です。

## 知ってるつもい・Q&A

労働組合と政党との関係は

**Q** 先日、参議院議員選挙がありました。新聞やテレビでは、労働組合と政党の関係が報道されることがありますが、知教労と政党との関係はどのようなものになっていますか。組合として選挙活動に取り組むことがあるのでしょうか。

**A** 組合と選挙の関係は、国政選挙のたびに問題になり、このコーナーでも2010年7月に取り上げており、もう一度確認しておきたいと思います。結論から申しますと、知教労は、特定の政党や立候補者を支持したり、いわゆる支持拡大などの活動をししたりすることはいっさいありません。

労働組合の基本原則として『資本・権力からの独立、政党からの独立』ということが大切であると考えています。したがって、組合として選挙活動をししたり、いわゆる「紹介者カード」などを書くことはありません。

組合運動の中で、要求や目標が一致する他の労働組合や民主団体、政党と協力・共闘関係をもつことは考えられますが、それは、組合員の議論を経て取り組むことです。

日本の労働運動で、組合が組合員の意味とはかけ離れた、選挙の集票マシン化してしまっている現実があることは、組合運動にとっての重大な弱点であり、克服すべき課題であると考えています。



## 感覚統合の遊びってご存知ですか？

じっと席に座ってられない、朝からあくびを連発し集中力が長く続かない、運動が苦手で不器用…、といった集団のなかでちょっと苦戦している子どもたち、クラスのなかにはいませんか？そんな子どもたちのなかには、実は自分の体の動きや力の入り具合を自覚できなかったり、バランスをとったり、姿勢をコントロールしたりする感覚をつかむことが難しいために、いくら注意されてもきちんとできないという困難を抱えている子どもたちがいます。

「感覚統合」とは、たくさんの感覚情報を必要なものといらないものに分けて整理したり、関連づけたりして、毎日の生活がスムーズにいくようにするための働きのことです。この感覚統合の考え方を生活や遊びのなかに取り入れ、必要な感覚刺激を経験できるようにするのが、感覚統合の遊びです。

私のクラスにはバランスを取ったり、姿勢をコントロールしたりすることが難しいため、何でも怖がってうまく遊べないA君がいます。しかし、そのA君が興味を示し、進んでやり始めた遊びがあります。それを紹介します。

<遊び方>

- ① 2種類のパズルをばらばらにして床に置いておく。
- ② スクーターボードに乗ってパズルを取りに行く。  
取ってきたパズル片を組み立てる。
- ④ 合わなかったパズル片は返して、違うパズルを持ってくる。
- ⑤ パズル片を組み立てて、完成したらお互いに拍手をして終わりにする。

※こだわりがある場合は競争にしない。

※スクーターボードはホームセンターなどで、板やキャスターを買えば安くできます。

怖がりのA君にとって、スクーターボードは自分で速さの加減ができるので安心感があり、それでいて床を滑るように動くところが魅力的で、お気に入りの遊具となったようです。腹ばいになって腕を使ってスクーターボードを走らせる運動が、A君の感覚を刺激し、次の意欲的な行動へとつながっていきました。

発達のかたよりには色々なタイプがあります。そのかたよりによって、効果的な遊びを見極めることはとても難しいことだと思えます。しかし、子どもたちがやる気になり、夢中になってする遊びに出会ったとき、確実に主体性をもった子どもたちへと変わっていくと感じました。そういう遊びをみなさんも仕掛けてみませんか？※かもがわ出版「たのしくあそんで感覚統合」佐藤和美著を参考にさせていただきました。

### 絵を完成

